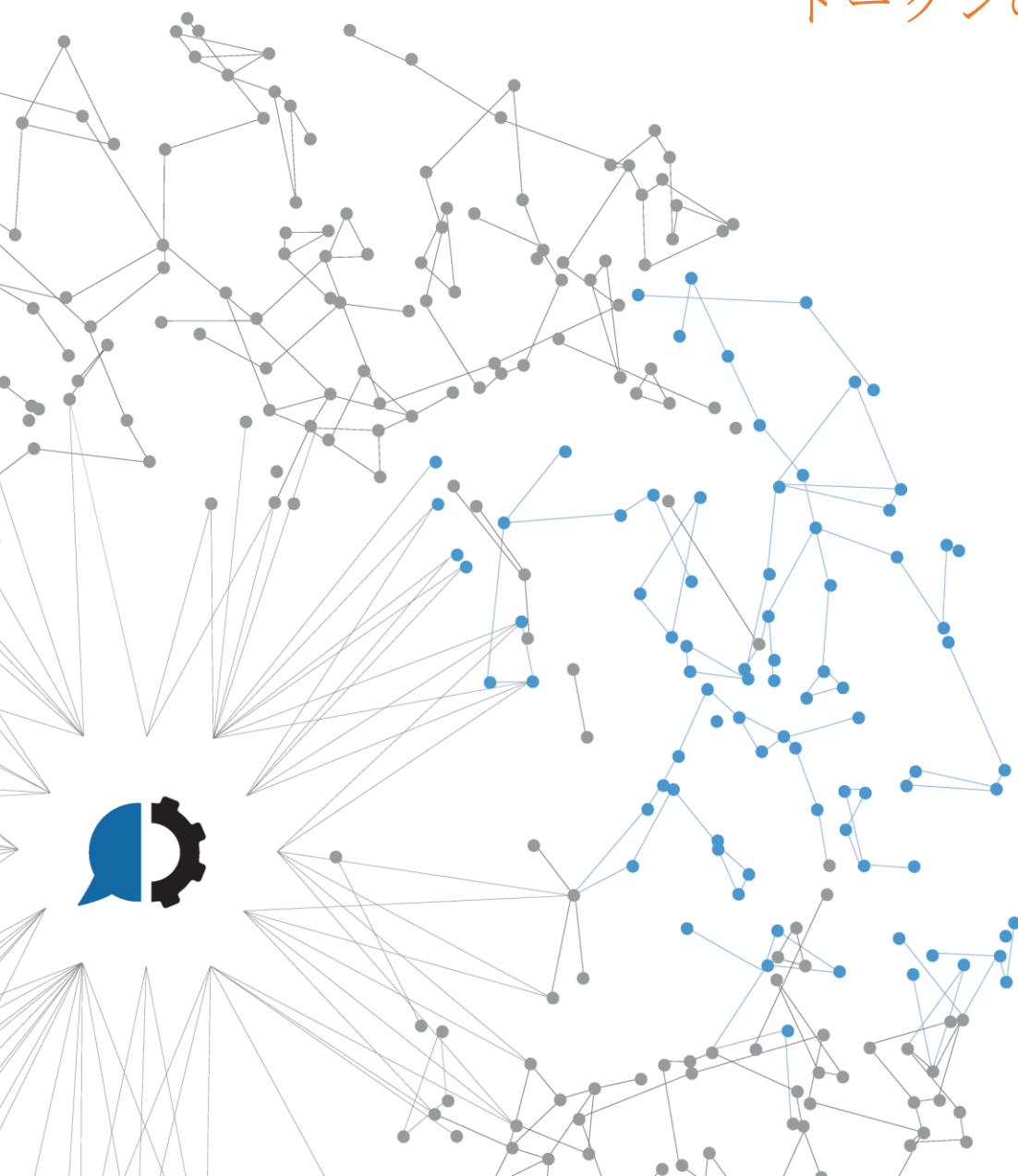




ADOBE SIGN BOT

トークンの生成と更新





目次

概要.....	3
必要条件.....	4
AUTOMATE タスクのインポート方法	8
「ADOBE SIGN BOT-トークンの生成と更新」の実行方法.....	9
付録 A- トラブルシューティング	12



概要

この How to ガイドでは、「ADOBE SIGN BOT-トークンの生成と更新」をご紹介します。繰り返しの多い手作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに AutoMate に任せて、RPA による自動化で IT とビジネスプロセスを合理化しましょう。AutoMate の支援により、ボットが手作業を代行することで反復作業を大幅に減らし、作業の品質と一貫性を向上させることができます。自動化されている主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポートとエクスポート、バッチ処理のスケジューリングです。

「ADOBE SIGN BOT-トークンの生成と更新」は **Adobe Sign OAuth Authorization Code Workflow** をベースにしています。Adobe Sign が提供する URL に対して、**OAuth2** アクセストークンリクエスト「**/oauth/token**」を実行します。初回のトークン生成には、「**authorization_code**」（認可コードワークフロー）タイプの「**grant_type**」パラメーターを使用します。ボットの最初の実行でトークンが生成されると、次の実行でトークンをリフレッシュするために、「**grant_type**」に「**refresh_token**」を指定します。トークンの有効期限は、デフォルトで1時間です。トークンを日常的に使用し、Adobe Sign Bot を動作させるためには、このボットの動作を分析し、ニーズに合わせて実行を設定することをお勧めします。

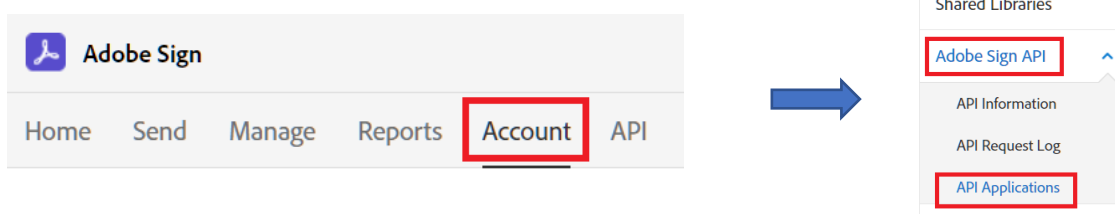
なお、Adobe Sign の API 連携は、「Enterprise 版」のみ対応しています。

詳細については、「[必要条件](#)」と「[ADOBE SIGN BOT-トークンの生成と更新の実行方法](#)」のセクションをよくお読みください。

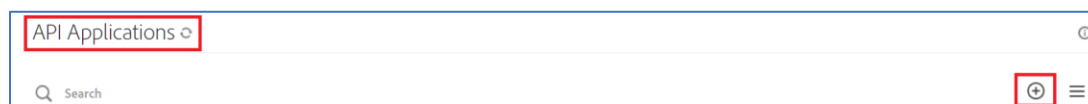


必要条件

- **AutoMate:** Adobe Sign ボットは動作に AutoMate を必要とします。最低限サポートされているバージョンが以下の通りです:
 - [AutoMate Ultimate 11.2](#)
 - [AutoMate Plus 11.2](#)
 - [AutoMate Desktop 11.2](#)
- **AutoMate Markup Language file (.AML):** Adobe Sign ボットタスクのステップを含む AutoMate で使用される主要なファイル形式
- **Adobe Sign Graph:** 最低限必要なものは以下の通りです。
 - **アプリケーション一覧ページで Adobe Sign のアプリケーションを作成する:** 他の Adobe Sign ボットとの接続に使用されるトークンの適切なスコープとリクエストを設定できるようにするには、Adobe Sign プラットフォーム内にアプリケーションを作成する必要があります。Adobe Sign のアカウントにサインインし、[ACCOUNT]タブ > [Adobe Sign API] > [API Applications]セクションを選択すると、API アプリケーションを見つけることができます。管理者権限が必要ですので、権限がない場合は、Adobe Sign の管理者にご確認ください。アプリの作成方法の詳細については、こちらの [Adobe Sign のリンク](#) からご確認ください。



API Application の追加:



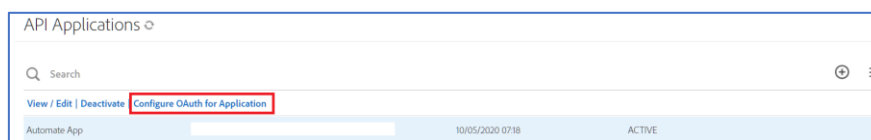


名前、表示名を入力し、「ドメイン」を選択します。

- **アプリケーションに OAuth を設定:** アプリケーションを作成すると、API アプリケーションのリストに表示されます。自分のアプリケーションを選択し、「**Configure OAuth for Application**」をクリックします。

The 'Create' dialog box prompts the user to provide a name for the application to issue a set of credentials for use with Adobe Sign's API. It includes input fields for 'Name' and 'Display Name'. Under the 'Domain' section, there are two radio button options: 'CUSTOMER (This application will only have access to data within your account)' and 'PARTNER (This application will have access to any authorized Adobe Sign account)'. At the bottom right, there are 'Cancel' and 'Save' buttons.

設定フォームが表示されます。必要な情報を入力してください。この設定には、ボットの設定で使用するクライアント ID とクライアントシークレットが含まれています（安全に保管してください）。認証コード付与のワークフローの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。



OAuth config: リダイレクト URL (<https://localhost> も利用可能) を設定し、必要なスコープを選択します。



Configure OAuth

Client ID:

Client Secret:

Redirect URI:

Enabled Scopes

Note: You must keep your Client Secret confidential.

Note: The redirectUri specified in your OAuth requests must belong to this list of uris. You can mention multiple uris as comma separated list.

You must enable the scopes that you intend to request through the OAuth protocol. Please limit the scopes that you enable to the minimum set necessary for your application, which is one of the requirements for Certification.

Please [contact support](#) if you need to change which scopes are enabled for your application. ?

Note that only Group Admins can approve OAuth requests that use the ".group" scope modifier, and only Account Admins can approve OAuth requests that use the ".account" scope modifier.

Enabled?	Scope	Modifier	Description
<input type="checkbox"/>	user_read	account	View users in your account
<input type="checkbox"/>	user_write	account	Create or manage users within your account
<input type="checkbox"/>	user_login	account	Login on behalf of any user in your account
<input type="checkbox"/>	agreement_read	account	Access documents & data on behalf of any user in your account
<input type="checkbox"/>	agreement_write	account	Manage the status of documents on behalf of any user in your account
<input type="checkbox"/>	agreement_send	account	Send documents on behalf of any user in your account

- **最初のボット実行のための認証コード:** アプリケーションの作成と設定が完了すると、ボットの初回実行に必要な認証コードを取得することができるようになります。ブラウザでパーソナライズされた URL (**##CLIENT_ID##**を自分のものに変更)を開くと、ブラウザのアドレスバーに認証コードが表示されます。URL には、必要な**スコープ**とリダイレクト URI を指定する必要があることに注意してください。この例では、**user_login:self**、**agreement_send:account**、**agreement_write:account** がスコープとなります。必要に応じて、他のスコープを追加することもできます。ログイン情報を入力し、リクエスト許可に同意すると、ブラウザのアドレスバー内に認証コードが表示されます。

このコードは、ログイン時やアクセスリクエストの受付時に指定したユーザー名、および **Auth Code** で生成されたトークンに関連付けされる点を留意してください。

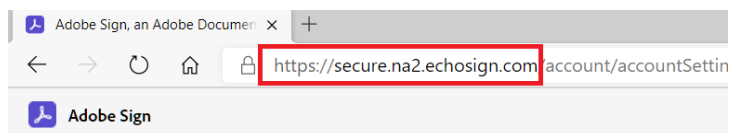


次に、リクエスト URL の例、Acceptance Window、コードの取得方法について説明します。

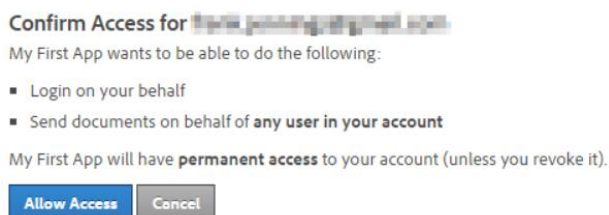
リクエスト URL:

https://secure.na2.echosign.com/public/oauth?redirect_uri=https://localhost&response_type=code&client_id=##CLIENT_ID##&scope=user_login:self+agreement_send:account+agreement_write:account

重要: Adobe Sign の URL (<https://secure.na2.echosign.com/>) はお客様のアカウントで Adobe Sign にサインインする際に取得するものと同じです。ブラウザのアドレスバーからコピーすることができます。



Acceptance Window:



Authorization Code:

http://example.com/callback/?code=eyJ0eXAiOi...81QFsje43QVZ_gw&state=a39fh23hnf23

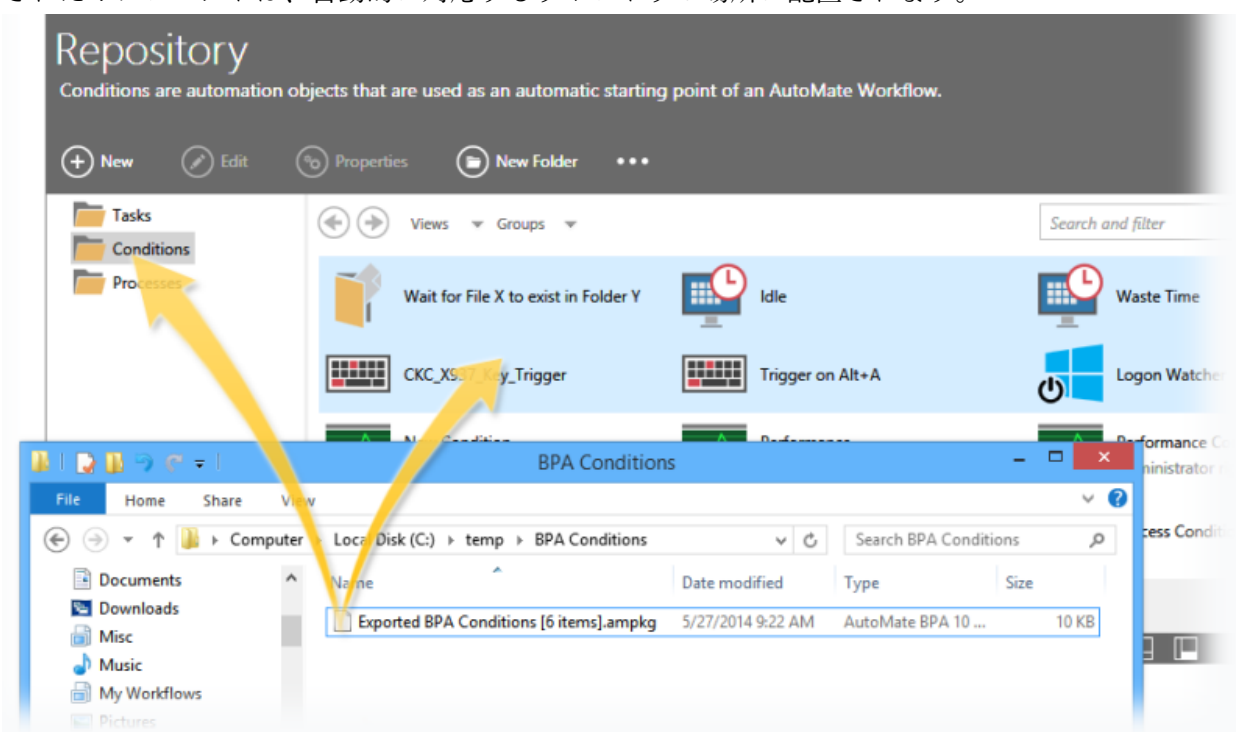


AUTOIMATE タスクのインポート方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでレポジトリに取り込むことができます。

サーバー管理コンソールから[レポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、[SMC](#) 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。



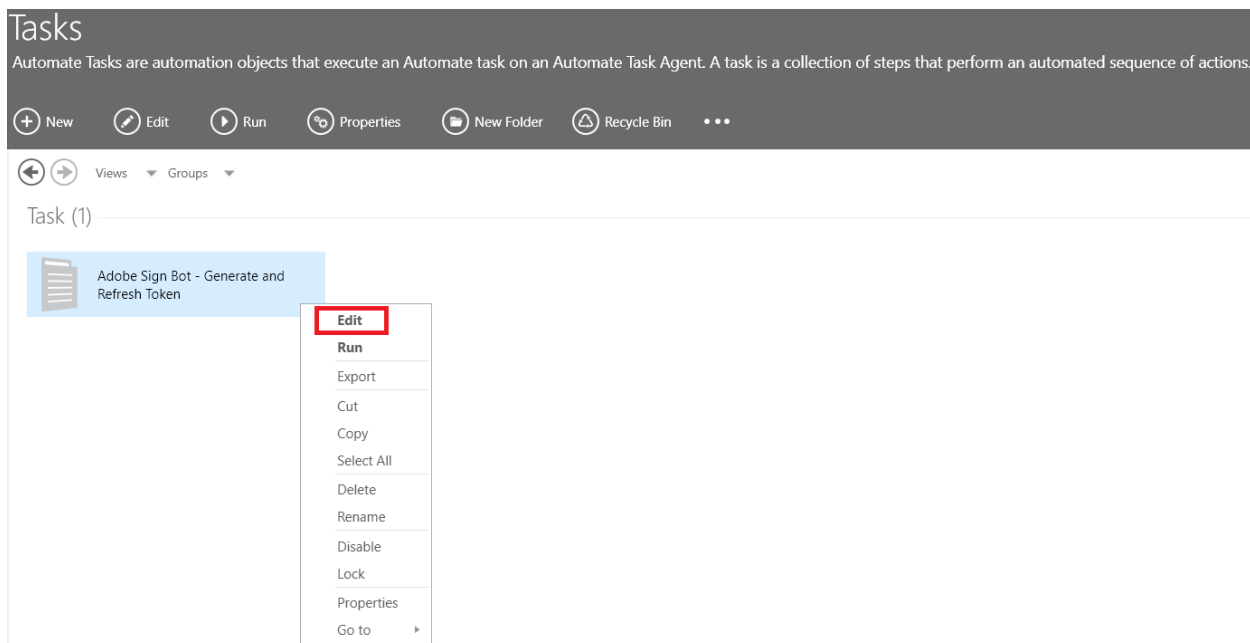


「ADOBE SIGN BOT-トークンの生成と更新」の実行方法

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメーターを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、「編集」を選択して編集します。



ステップ2からは、次の変数をご希望の出力に合わせて編集してください。

- **var_GetURL:** お使いの環境の URL を設定します。Adobe Sign は複数のエンドポイントを使用します。Adobe Sign にログインし、ブラウザのアドレスバーからメインアドレスのドメインをコピーすることで、URL エンドポイントを取得することができます。
例: <https://secure.na2.echosign.com>.
- **var_AuthCode:** 認証コードを設定します。この値は、Adobe Sign がユーザーに同意を求める際に提供されます。詳しくはユーザーガイドをご覧ください。この変数は、初回起動時にトークンとリフレッシュトークンが存在しない場合にのみ使用されます。
- **var_RedirectUri:** リダイレクト先の URL。デフォルトでは、<https://localhost> に設定されています。ボット操作自体にはこの値はあまり必要ありませんが、必要不可欠な変数です。



- **var_ClientId:** この ID はアプリに固有のもので、OAuth を開始するために使用されます。Adobe Sign では Application Integration Key と呼ばれます。
- **var_ClientSecret:** 作成した Adobe Sign アプリ内で生成されたクライアントシークレットになります。
- **var_TokenFileOutput:** トークンおよびトークンリフレッシュ文字列が生成されたテキストファイルをボットに作成させるためのパスとファイル名になります。デフォルトは以下の通りです。

C:\Automate\AdobeSignToken.txt

以下は、生成されるテキストファイルの内容の一例です。



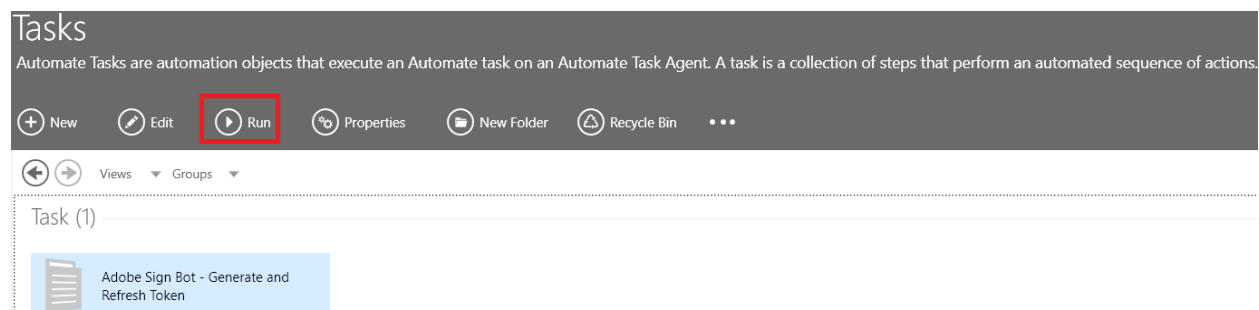
```
*AdobeSignToken.txt - Notepad
File Edit Format View Help
access_token:3AAABLb1qZhBv0uXyZTafyz
refresh_token:3AAABLb1qZhD-M4AJB
```

重要: Authorization Code を変更した場合、最初のボット実行前にこのファイルを削除します。

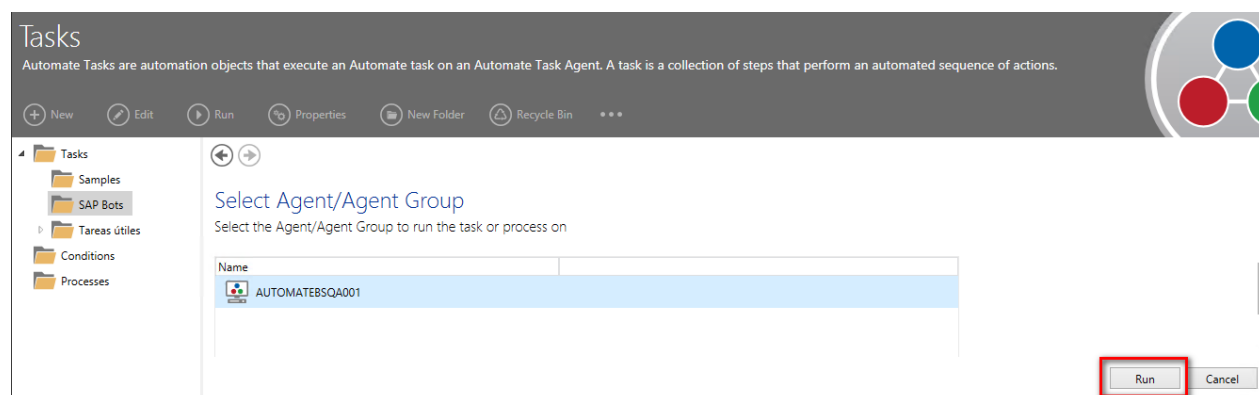


タスクを保存して閉じる。

タスクを選択し、「実行」をクリック



エージェントを選択し、再度「実行」をクリックします。





付録 A- トラブルシューティング

- ログ: 実行毎に、トラブルシューティングのためボットはログファイルを作成します。 ログファイルは C:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>> に保存されます。デフォルトでは、タスク名は *Adobe Sign Bot - Generate and Refresh Token* です。



About HelpSystems

Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and Automate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people